

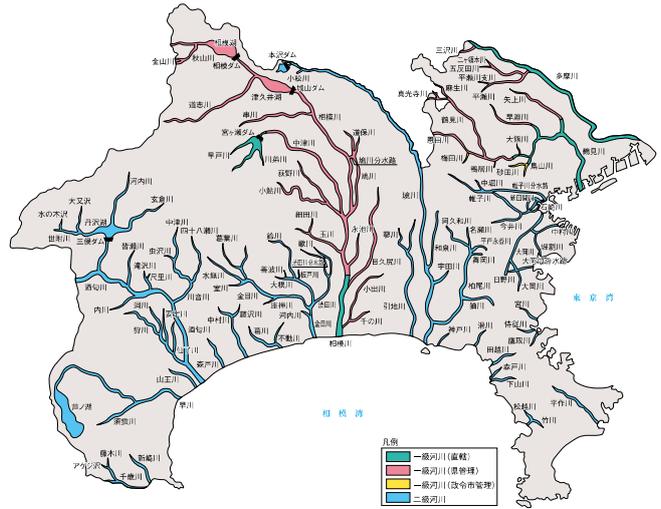
# 総合治水対策について

～流域の力を合わせて安全なまちへ～

## ○神奈川の河川

県内には、県の中央部を南北に流れる相模川と県西部を流れる酒匂川の2つの大河川があり、飲料水などの水源として県民の暮らしを支えています。

相模川を境とする東側では、都市化の進展が著しい地域を流れる河川が多く、西側では、箱根、丹沢などの山岳地帯を水源とした自然豊かな河川が多くなっています。



## ○都市化する流域と洪水

近年の都市化など流域内の開発が進展する以前には、森林や水田、畑などが、雨水を一時的に貯留したり、地中へ浸透させたりしていたため、雨が降っても下流への流出が抑制されていました。

しかし、都市化の進展や開発により地表がアスファルトなどで覆われると、雨水を貯留・浸透させる機能が低下するため、雨水の流出量の増大や出水時間が早まることなどにより、低地部での洪水による浸水被害が増大しています。

**開発前**

森林や畑などは雨水を一時的に貯留したり、地中に浸透させたりする機能があるため、雨が降っても下流への流出が抑えられます。

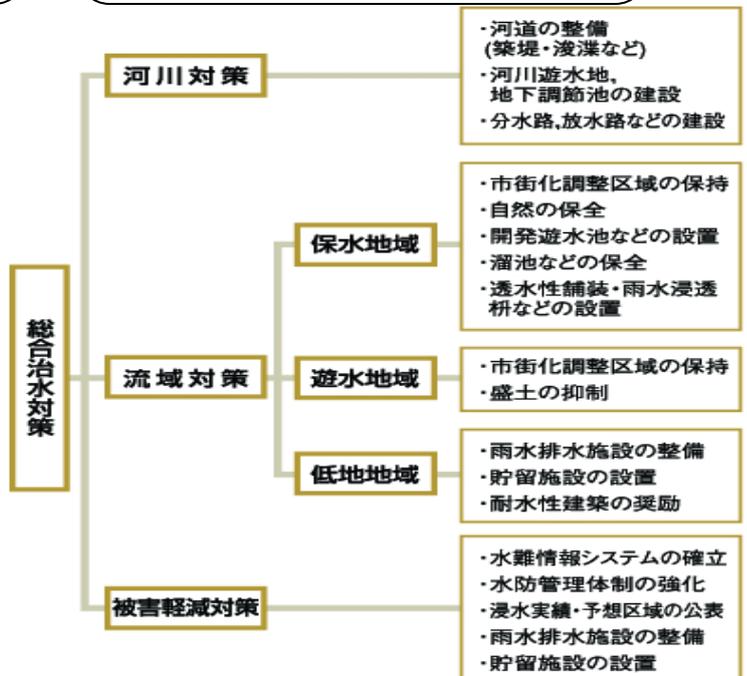
**開発後**

地表がアスファルトなどで覆われ、森林や水田・畑などが失われると、雨水を貯留・浸透する機能が低下し、下流への流出が増大して低地部での氾濫被害が増大します。

## ○総合治水対策

こうした事態に備えて、河川の流下能力の向上のため、河川の改修や遊水地の整備を積極的に進めるとともに、緑地の保全や調整池の整備などの流域の保水機能を確保し、安全な土地利用を誘導するなどにより浸水被害の防止と軽減をめざすのが総合治水対策です。

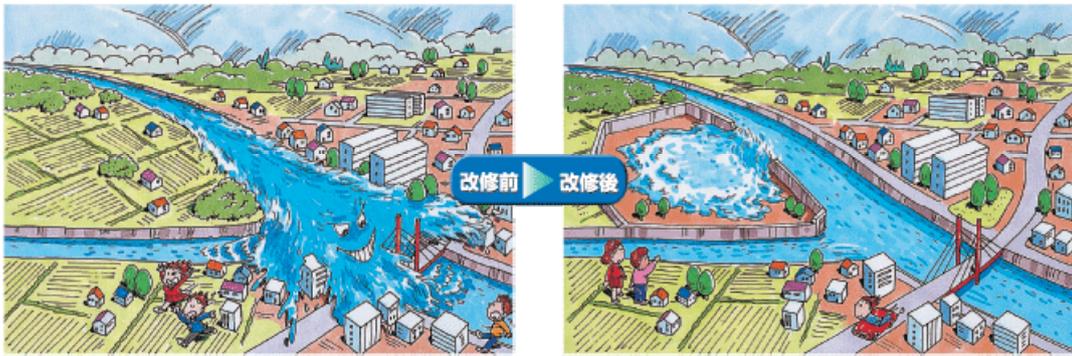
神奈川県では、鶴見川、境川、引地川、目久尻川の4河川が「総合治水対策特定河川事業」の対象となっています。



## ○総合治水対策の事例

### 遊水地の整備（河川の対策）

洪水を一時的に貯めて、河川の水位が上昇した場合に洪水の最大流量（ピーク流量）を減少させるために設けます。



●境川遊水地（横浜市）【平常時】



●境川遊水地（横浜市）【洪水時】

### 調整池（流域での対策）

山林や農地などが開発されると、雨水が地中に浸透しにくくなり、下流の排水施設や河川への流出量が増加するため、雨水の河川への流出量を一時的に貯留させるために設置されます。



●防災調整池（横浜市泉区）



●防災調整池（横浜市泉区）

### 浸透ます（流域での対策）

雨が降ったときは、ここに雨水が集められ浸透していきます。

